



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	芸術学部をもつ総合大学として：民主社会のための学生教育
Author(s)	ジェンキンス, ジョン・A
Citation	高等教育ジャーナル, 3, 209-220
Issue Date	1998
DOI	https://doi.org/10.14943/J.HighEdu.3.209
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/29837
Type	departmental bulletin paper
File Information	3_P209-220.pdf



芸術学部をもつ総合大学として: 民主社会のための学生教育

ジョン・A・ジェンキンス
マサチューセッツ大学芸術センター

The Reality of Fine Arts in the University: Educating Students for a Democratic Society

John A. Jenkins

Fine Arts Center, University of Massachusetts Amherst

(翻訳版)

マサチューセッツ大学は、1862年の土地贈与大学創設活動から生まれた60大学のひとつである。この総合大学の芸術学部は、理論としての知識を実践応用に結びつけ、芸術を効果的に教育に利用し、芸術を多くの市民に伝えていく大学の国家使命のなかにしっかりと根をおろしている。この枠組みのなかで、芸術センターは、キャンパスおよび周辺地域のために様々な芸術に関する文化的、教育的プログラムを提供している。

芸術センターのプログラムは、芸術分野でのプロをめざす学生の教育と結びつき、また他のすべての専攻の学問研究を補足している。芸術は大学が生涯教養教育を推進する公開プログラムとしても重要な要素となっている。劇場や画廊に加えて、センターは芸術、演劇、音楽、ダンスの部門をもち、この1年間にこれらを主専攻とする学生750人を抱えている。

一般教育のカリキュラムでは、芸術と文学は、互いの関連および芸術界、文学界との関連で、言語、視覚、聴覚を通じての芸術の創作、演出、機能、美学的評価を考えるうえで相補的分野である。17,400人の学部学生の各々は、芸術と文学から少なくとも二つの科目を修めなければならない。

芸術センターは大学図書館と並んでキャンパスの中心に建設されている。中心に位置することは、大学のあらゆる局面に芸術を織り込むことを理想としてからである。センターはすべての大陸の芸術的伝統を深めることにも備えている。David Scott総長は「芸術センターはキャンパスの創造的努力を象徴である」と述べている。

芸術、文系、理系(科学)の統合と一般教育と専門教育間の垣根の除去は創立以来の大学の中心におかれてきた。Scott総長によると、「土地贈与大学モデルは、社会研究の奨励とカリキュラムへ新たなアプローチをしている。芸術、文系、理系(科学)の統合は社会が農業型から工業型へ移行とするとときにきわめて重要である。このような統合が、今日ほど求められていることはこれまで決してなかった。」

今年、Scott総長は、多様性と国際性の重視、21世紀へのリーダーシップに学生が備えることのために、一般教育カリキュラム再デザインの数カ年計画を開始した。私は、新しい教育モデルをデザインしていく先導、一般教育作業委員のとりまとめを依頼され意気に感じている。

緒言と背景

大学は、今日、革命を求めている。21世紀には、学生に対する一般教育カリキュラムの小さな改善のみではもはや不十分である。知識だけで学生を教育することは、もはや可能でないし、学生にはビジョンが必要である。学生が自国だけで生活し、働いていればよいという教育はもはやなりたない。学生はあらゆる国のあらゆる人々を理解し、受け入れるようになる必要がある。これからの学生は、すべての大陸のすべての国家において、地球規模で生活していくであろう。このような時代では、新しい教育はすべてに芸術を必要要素としている。わたしたちひとりひとりが認識しなければならない。

この5月のハーバード大学の卒業式において、米国の国務長官 Madeleine Albright 女史は未来への挑戦としてつぎのように述べている。

本日卒業のみなさんは、これからは地球規模で生活するでしょう。世界市場で競争することになるでしょう。これまでの世代のだれよりも多く旅行をするでしょう。あらゆる文化から、対極にある発想、審美観、経験を交換し、期待に応える未来をつくることになるでしょう。このためには、みなさんは外の世界を見なければなりません。(Albright 1997)

21世紀の一般教育は学生が地球規模で生活することに備えるものとなろう。このためには、芸術と人文学(文学、語学、哲学など)が現実的に必須となる。芸術と人文学は、時間、距離、文化のあらゆる境界をこえて理解するための新しい方法、コミュニケーションするための新しい方法を学生に教える中心となる。人間的努力を要するあらゆる分野において、より高いレベルで物事を成し遂げるためには、芸術と人文学の学習は欠かすことができない。

今日のテクノロジー社会において、芸術の現実的目的は何であろうか? 芸術は、あなたとわたしを分け、わたしたちと他の人たちを分けている通常の境界をこえて、直ちに意志疎通をはかる。芸術は、調和と平和と相互理解を育成する。芸術は話し言葉を補足する。芸術には独自性があり、わたしたちの過去、現在、未来と、そしてわたしたちの仲間であるすべての人間と意志を通ずることができる。

教養(リベラルアーツ)教育でできることは何であろうか? 近代の研究大学は学生を先導する明瞭な解答を提供している。すなわち、主専攻の学習や職業で実力を発揮できるように学ぶこと、芸術と人文学から得られる知恵でもって職業的知識を統合することを学ぶこと、新しい知識を捜し出し、これを見える形にまとめていく探求心を学ぶことなどである。芸術と人文学はリーダーシップが見える生き方をするために最も現実的な教育を提供する。

10年前に、ジェネラルモーターズの社長である Roger Smith はミシガン大学へキャンペーンをする志願者リーダーたちと「職業とリベラルアーツ」について討論している。

管理職は、それ自体アートである。管理術はビジョンからはじまる。それは、彫刻をしようとしているのか、協力体制を再編しようとしているのかによらず、何を創り出そうとしているのかという発想をもたなければならないからである。ある企業の競争と生き残りは、管理者のビジョンにかかっている。

このような精神的過程は、リベラルアーツを学ぶことで得られる。全く異なるようにみえる物事の間関係をみて、これまでの馴れ親しんだ要素を新たな形態へ結び付けていくことを学ぶ。ばらばらになっているものを、互いに結び付けることを学ぶ。いいかえると、職業的問題をみえる形に解決していくある種の創造性を学ぶことになる(Smith 1985)

同様に、最良の教師、最良の医師、最良の患者、最も効果的政治指導者は、見える形で問題解決をしていく特別な創造性をもった人物である。この特別な創造性、ビジョン、探求心、発見能力、統合能力が、研究大学における学部学生の一般教育の基本的目標である。

マサチューセツ大学アマースト校

1867年、マサチューセツ農科大学が開設された時、4人の教師と4つの木造の建物が最初のクラスの56人の学生を待ち受けていた。そして、1892年には最初の卒業制度が認可された。「マ農大」は、1931年にマサチューセツ州立大学になり、1947年には、マサ

チューセッツ総合大学となった。この総合大学は、学術プログラムの点検と認可に責任を分けあう州高等教育委員会および評議員会によって運営された。評議員会の理念は総長と5つのキャンパスの5人の学長によって具体化された。多くの大学の「旗艦キャンパス」として、アマーストは国の内外から学生を集め、100近くの主要科目と大部分の学問分野で卒業時に博士号を与えるプログラムを提供した。

大学の規定は、「芸術は人生を模倣する以上のものであり、人生を解釈し、説明する」と述べている大学の理事によって定められた。評議委員会によれば、マサチューセッツ大学アマースト校は「総合的芸術プログラムと人間と生活文化の質の発展、および多面的に動いている社会にとって必須の多様性を種々の文化に認め、受け入れの推進に責任をもっている。」(総長室1996)。David Scott総長は、最近、「一般教育は芸術、音楽、文学などで、審美的感受性を学生に育成すべきである」と述べている(Scott 1996)。

大学の訓令は「芸術はマサチューセッツ大学アマースト校で学生教育の中心である」と明言している。この枠組みのなかでマサチューセッツ大学芸術センターは、キャンパス構成員やまわりの地域社会人のために演劇や美術の文化的、教育的プログラムを提供している。芸術センターは、学生の芸術職業教育および他のすべての専攻における学術活動を補足し、統合している。芸術はまた大学外で生涯学習を推進する重要な部分となっている。コンサートホール、劇場、大学ギャラリーに加えて、芸術、劇場、音楽と舞踊講座を含む中央棟では、1996 - 1997年の1学年度間に750人の学生が芸術の職業教育を履修している。

大学芸術センター

1960年代の大学の拡張期間に、評議会は学部および大学院における音楽と舞踊、芸術と演劇の専門教育を補充し、芸術センターをデザインするためにRoche & Dinkeloo建築事務所を雇用し、マサチューセッツ大学アマースト校を今の場所に設計した。センターの建築場所の選択は、キャンパスになかなか受け入れられないものであった。論点は、新しい建物をキャンパスの中心に近い最も目立つ場所に建築すべきだということだったからである。今の芸術センターは、大学図書館とともにキャンパスの真ん中に

位置し、それ故に、「大学生活のあらゆる異なる視点を、互いに縫い合う理念を表現し、大きな人的集合体を形成している。」(Stiffler 1995)。昨年、スコット総長は、この大学における芸術の重要性を以下のように再確認している。

芸術センター設立20周年を祝うにあたって、わたしたちは、大学のあらゆる場面が芸術的センスに関連し、芸術センターはいかにキャンパスの創造的努力に寄与してきたかを知ることができます。(Scott 1995)

芸術センターは巨大な建物であるばかりなく、総合的にみれば、美術や演芸(演劇、演奏、舞踊)の催しもの、芸術家と聴衆、演奏会場と画廊などが互いに影響しあっている場である。専門的芸術講座は、学部学生のひとりひとりに関与しているし、大学院生や周囲の地域住民にも大きく関わっている。

大学や地域社会に対する芸術センターの中心的活動は、芸術センターコンサートホールとボウカー講堂での毎年の様々な催しものシリーズである。多くの芸術家を招き、これらのホールはもう何年も聴衆で一杯になっている。サラ・ボーガン、ユージン・メニューイン、ジュリアン・ブリーム、ボビー・マクフェリン、ディズィー・ギレスピー、デエイブ・ブルベック、ジョージ・シアーリン、レイ・チャールス、そしてクロノス、ジュリアード、東京、グアルネリ弦楽四重奏団、コードー・ドラマーとダンサー、ロイヤル・ウイニペグ・バレエ団、メキシコ民族舞踊団、ボルドー劇場バレエ、ハーレム劇場バレエ、ブロードウェイ・ミュージカル・ショー、それからシカゴ、レニングラード、サンフランシスコ、セントルイス、ウイーン、チェコスロバキアなど世界の大交響楽団などが演奏会や公演を開き、また最近ではエストニア交響楽団室内コーラス、タリン室内楽団、マリアベニーテス劇場フラメンコ、ガスファークン舞踊団が公演している。

芸術センターシリーズ美術部門は、大学ギャラリーで行なわれる。このギャラリーは彫刻、アンセル・アダムスの写真、ダニエル・バレン、リチャード・フライシュナー、ジャッキー・フェララ、ジェニー・フォルツナー、シラゼー・ハウスシャリー、ジン・スー・キム、マーチン・パリヤー、アッレン・ウェクスラー、ジョージ・トラカース、ロバート・ミュレイ、

ステフェン・アントナコスなどのアメリカ美術の収集で目立っている。

鉄板、石、ブロンズのあちこちに配するウィリアム・スミス・クラーク記念野外彫刻庭園は、マサチューセッツ農科大学の初代学長の母校、米国と日本の農業研究への貢献の記念、札幌農学校—後の北海道大学、マサチューセッツ大学校の姉妹校—創立への助力を記念するものである。この庭園は、1991年に学生であったTodd Richardsonが、Barrio B. Greenbie、浅川壮一郎、高野史明の支援により造り上げたものである。

1975年のキャンパスにおける学生と教師の活動状態からみて、芸術センターがある夜にボストン交響楽団、つぎの夜にボストンポップスのコンサートを正式に開催したことは驚くべきことではなかった。しかし、この催しは直ちに学生の抗議を受けることになった。舞台裏では、指揮者の小沢征嗣、Arthur Fiedlerはコンサートホールの素晴らしさを賞賛し、一方、建物の外では学生たちが音楽を「エリート主義、ヨーロッパ中心主義、文化や人種偏見のシンボル」であると抗議していた。学生と教師がカリキュラムに様々な文化を盛り込む必要性に気付き、これを取り入れるようになっていた時代に、このように大学芸術センターが初期の結実に向かって成長していったのは幸運なことであった。時代の求めに応じて、大学の教師と管理者たちは、全世界の文化の豊かさを守る責任にますます気付くようになっていた。センターの中では、芸術界に新たに発展してきた特別プログラムがキャンパスに芸術の豊かさを増していった。

これらのなかで最も目に付くことは、1979年に、アメリカのすべての人種と少数民族のメンバーにより、自らのための演劇を行なった新世界劇場での活動である。最初の15年間で、新世界劇場はアメリカのアフリカ人、アメリカのアジア人の都市における自立、移民の歴史、奴隷制度廃止運動、南アフリカや日本やメキシコから離れた労働生活について、200以上の創作劇を上演した。

芸術センター最初の10年に、色彩の芸術家による絵画、彫刻に貢献するアウグスタギャラリーを設立した。このギャラリーは大学の新アフリカハウス学生寮の一部を占め、モロッコのオウド芸術家Tarik Benbrahim、プエルトルコ詩人Jack Agnerosやアブエナキ・インディアンでケベック詩人のCheryl Savageau

のような音楽家、詩人、物語の話し手、舞踊家のための上演場所を提供していた。センターの最新の催しはアジアの舞踊や音楽のプログラムであった。1997年から1998年の1学年度では、このプログラムによる上演は、イングラ・スパルタのインドネシア芸術プロジェクトで、インヤンション韓国舞踊と尺八演奏家の秋和のトリオなどであった。

芸術センターの主要なテーマは生涯教育活動である。1996年から1997年の学年度には、センターは5つのギャラリーでの56の美術展、4つのコンサートホールで172のコンサート、数多くの芸術家研修、修士クラス、ワークショップを主催した。土地贈与大学の社会人サービス使命として、マサチューセッツ大学は社会人をこれらのすべての催しに参加できるようにしている。

芸術センターの演芸部門は幼稚園から成人まであらゆる年齢層の地域住民に対して多くの教室、個人レッスン、音楽や舞踊、演劇上演の機会を提供している。学部や大学院の音楽、舞踊、演劇学生に対しては芸術学部の指導のもとにある教育部門が提供されている。地域社会芸術プログラムは、ハンプデン劇場と附属のギャラリーで実験的および多文化的演劇、舞踊、音楽の上演を行なっている。このプログラムは、5,000人の学部学生に対応するために学生密度の高い区域に置かれている。夏にはセンターは、ジャズ演奏家のSheila Jordan、Max Roach、Yusef Lateefおよび即興演奏のための7月のワークショップにおけるビリー・テイラートリオと学ぶために世界中から学生を集めている。学期中には、公立学校の生徒や先生のツアーバスが若者のためのコンサートに参加するために芸術センターにやってくる。他に数千人の子供たちが都市郊外にあるスプリングフィールド公立学校と大学との芸術開始教育連盟の仕事に関わっている。このパイオニア的プログラムは、経済的な理由で市内に住まなくなった人々の子供たちの教育に芸術センターの芸術家が関与し、芸術が毎日の生活の一部になることを助けている。

土地贈与大学としての使命

土地贈与大学に対するアメリカの運動は、チャールス・ダーウインの「種の起源」の出版と、つづいて科学の役割の重要性が強調されてきたことに始まった。アメリカの伝統的リベラル、アーツ大学は、ヨー

ロッパをモデルとしたものである。しかし, 19世紀初頭には, Thomas Jeffersonはこれまでの大学の在り方を批判し, 完全に公的経済支援のものに, 園芸, 化学, 動物学, 解剖学, 農学の先端的研究を教授することのできる州立大学をヴァージニアに創立することを提案した(Jefferson 1800)。1850年にはブラウン大学のFrancis Waylandは, 「この国には, 120の大学, 42の専門理論学校, 47の法律学校があるが, 卒業後の生活をささえる職業に備える教育を行なう農学, 工学, 機械学, 商学を修める大学はただのひとつもない」と指摘した(Wayland 1850年)。

1862年には「科学および古典を学ぶことなしに, この国はどこへ向かえばよいのか, ……そしてこれには農学や機械工学の技術を学ぶ場が必要なのだ」という理由で, 州立大学—これらの大学はのちに米国の土地贈与大学の最良のものに発展した—を支援するために連邦政府の歳出予算を確保することを提案するモリル案が出された。このころは, 農学や国家財政のための経済学の重要性が増していったことに政治家のリーダーたちは気付いていなかった。そのために, 農業従事者や工場労働者が活発に政治活動を行ない, 結局, 議会はモリル案を通過させ, アブラハム・リンカーン大統領はこれに署名した(Brubachor 1968)。

20年後には, アイオワ州, マーシャルタウンの上院議員のPreston M. Suttonは「農学と工学技術を学ぶ先進的な場では, 一般的な教養課程も必要であり, 生徒は農学のような実学を学ぶと同時に教養を学ぶことが必要である」として, バランスのとれたカリキュラムを確立した(Sutton 1884)。実際に, マサチューセッツ大学が採用している今日のカリキュラムは, 各学生が主専攻とする実学教育とすべての学部学生に要求される一般教育カリキュラムに表される教養教育との結合である。そして現在は, 21世紀に備えて学ぶ学生に対する一般教育の到達目標と内容を再検討し, 再規定しようとしている。

すべての学部学生への一般教育カリキュラム

今日のマサチューセッツ大学アマースト校の学部学生に対する一般教育必要履修単位は1986年に大学評議員会が決定したものである。入学の登録にあたって, 大学は「すべてのよく教育を受けた人物は,

想像力豊かな生き方を探求し, 解釈し, 価値づけるために文学や芸術に親しむ必要がある」と述べている(教育担当副学長室 1995)。入学ガイドラインにはつぎのような新しいプログラムが述べられている。

一般教育は, 自然科学者, 社会科学者, 人文学者, 演芸に関わる芸術家が彼らの学究をいかに考えるか, 彼らの仕事を歴史および現代社会にいかに関連づけるかを学生が学ぶようにする。これは, ものを書けること, 問題解決できることが例外ではなく通常のことであり, ものの価値がわかり, これを評価できるようになることに関係するだろうことを意味する。

一般教育は, 人間社会, 生物と物理, 基本数学技術と分析理論, 作文技術の4つの基本分野からなる。これらの分野は, 講座の境界からなるというよりは, 知識の分類範疇を反映している。「人間社会」は, 芸術と文学, 歴史学, 社会と行動科学の3つのカリキュラムに区分される。学生はこれらのカリキュラムからつぎの6つのコースを履修しなければならない。すなわち, 芸術と文学から2科目—少なくとも文学から1科目, 歴史学から1科目, 社会と行動科学から2科目, そしてその他にこの分野のどれかからもう1科目を履修しなければならない。すべての学生は, 他分野履修, 「人間社会」または専攻間履修の1つまたは両者, または多分野履修のみから2科目を選択する。

芸術と文学

芸術は人生の模倣以上のものである。芸術は人生を語り説明する。一般教育における芸術と文学分野は, 互いに関連し, 芸術を生み出す社会に関連する言語, 視覚, 聴覚, 造形の芸術の創出, 演芸, 機能, 美的価値観を考える様々な科目からなっている。一般教育カリキュラムの芸術と文学の科目群は比較と辛辣な批判精神を惹起するようデザインし, 作文練習をとおして言語表現を高めるようにしている。科目は基本的には出演あるいは質を問わない技術の学習を目的としているが, 演劇やコンサートやギャラリーなどで企画, 出演, 参加などの実体験をもてるようにしている。

社会的, 文化的多様性

学生は人間文化と社会についての様々な学科から2科目を履修しなければならない。教育ある人々が文化的違いの価値を認める態度によって導かれるべきであるので, 一般教育はお互いに異なる社会と文化の複雑さを指向することも必要である。このような

要求を満足させる科目群は北アメリカと西欧伝統の展望を越え, アフリカ, アジア, ラテンアメリカ, 中近東に焦点を合わせ, 北アメリカに住むこれらの人々の衰退, 西欧工業社会における他の少数民族, そしてアメリカ先住民について学ぶ。社会的, 文化的多様性に対する感受性は近代社会の力の動きを理解することによって進展するために, 女性や少数民族の異なる人生経験および貧困に焦点を合わせる科目が要求される。

作文技術:

作文履修の目的は学生が将来の学術研究, 生活, 職業のなかで文章を書くときに必要となる技術の獲得を助けるものである。作文技術のプログラムは(1)作文評価試験 (2)新入生作文科目の修了 (3)学生の専攻講座内での高学年生作文履修の修了を要求している。これに加えて, 作文は, 学部教育カリキュラムの他の部分にも組み込まれている。さらに, 講座は学生の専攻と関連して4年間の選択科目に作文の上級科目を履修することを勧めている。

専攻間履修コース

一般教育カリキュラムは大学の構成専攻内で管理されている。一方, ある学部は実験的, 多専攻の主題別科目に興味を示し, 学生もこれらを履修することによって, 一般教育の作文, 基本数学技術, 分析理論をのぞく3科目を満足させることができる。

低学年学生の一般教育における芸術科目

10年以上前に, マサチューセッツ大学アマーフト校は大胆な新しい一般教育カリキュラムを確立した。芸術センターに対応して大学は最初の専攻間一般教育芸術科目, 「芸術実技」を開設した。このコースには, 17,000人の学部学生の20%以上の学生が, 各専攻の熟練教師による講義や小グループ討議, 実演の経験, 展覧会出品に参加している。このコースは, いろいろな記事にとりあげられ, 大学外の市民の参加も歓迎されて, 大学の名誉学生のためのクラスも1つ用意されている。「芸術実技」を企画し, 教える目標は, 学生が, 芸術における国際的視点をもてるようになること, 他の異なる社会や文化に親しめるようになること, 一生の間に世界のどこにいてもコンサートや展覧会を楽しめるようになることである。

大学の学部学生一般教育カリキュラムでは, 芸術と文学は専攻の学習を補充するものである。すべての学生は少なくとも2つの科目を修了しなければならない。キャンパスの1,235人の教師のうち, 313人(どの学部とくらべても最大の人数)が芸術と人文学部で教えている。数多くの一般教育芸術クラスが, 芸術を専攻としていない卒前学生に教え, その教育活動の中心においている。1995年から1996年の学年度には, 教授達は文学と芸術の248クラスを教え, このうち79クラス(32%)が芸術に関連している。ここに

表1. 一般教育芸術科目履修登録学生数

科目	履修者数
音楽入門	761
演劇入門	596
美術入門	523
芸術実技	515
ジャズの歴史	257
ルネッサンスから近代芸術までの歴史	209
古代から中世芸術までの歴史	191
基礎絵画教室	185
基礎デザイン教室	152
アバンギャルド映画	148
アフロ・アメリカ音楽	148
芸術文献学	90
総登録数	3,775

は、少なくとも芸術の1科目を修了した学生が、5,111 人登録されている。この数字は、音楽、舞踊、演劇、美術などの芸術を主専攻としている学生は含んでいない。表1 は一般教育芸術科目の履修登録学生の数である

つぎのデータは、一般教育カリキュラムの知識分野におけるクラス数と登録学生数である（学術企画評価オフィス 1997）。

表2. 一般教育カリキュラムの知識分野におけるクラス数と登録学生

履修登録学生数	知識分野	クラス数
13,003	芸術と文学	248
6,247	歴史	101
19,150	社会と行動	218
18,712	生物と物理化学	162
13,413	分析理論	288
3,804	作文技法	166
3,121	専攻間履修科目	46

芸術主専攻学生専門教育

芸術、音楽と舞踊、演劇の講座は人文と芸術学部なプログラムを提供している（学術企画評価オフィスの主要構成要素である。これらの講座はつぎのようス 1997）。

表3. 人文と芸術学部における芸術学位プログラム

学位の分野	学位の種類	学位認定数
芸術講座		109
芸術デザイン	美術学士 理学修士	
芸術教育	芸術修士	
芸術史	芸術学士 芸術修士	
スタジオ芸術	芸術学士 美術学士 美術修士	
音楽と舞踊講座		42
舞踊	芸術学士 美術学士	
音楽	芸術学士 音楽学士 音楽修士 哲学博士	
演劇講座		28
	芸術学士 芸術修士	

つぎのデータは1997年春学期に芸術講座を主専攻 としての登録学生数である(大学調査オフィス 1997)

表4. 芸術を主専攻とした学生数

講座	クラス					
	1年	2年	3年	4年	その他	小計
芸術	54	67	119	126	11	377
音楽と舞踊	60	57	55	55	9	236
演劇	38	39	31	32	1	141
総計	152	163	205	213	21	754

キャンパスの管理運営の変化

芸術, 1975年から1997年

1975年までのキャンパスの芸術に対する下地は1世紀以上前から進展してきた。州は教育と市民サービスのために1975年にマサチューセッツ大学アマースト校に芸術センターを設立した。現実にはセンターははじめ市民公開コンサートと展覧会を開くことに集中した。学生の参加ははじめ多くはなく, 1979年には聴衆の20.4%に過ぎなかった。大学顧問委員会の学生メンバーは, たった4年間に学生のチケットの値段が2倍にもなったことを訴えていた。続いている決定は, 芸術センターの新しい方向を確立し, キャンパスの文化を芸術重視に変えることになった。

芸術センタ - は, 「学生の入場料の補助とコンサートホールとボウカー講堂でのプログラムを行なうための様々な技術料金の補助のために」学生から年間6ドルの演芸費を徴収することを学生収入授業料委員会に提案した。センターは, すべての芸術センターコンサートのために本学の学生に入場券を半額で提供することを約束した。これらの提案は認められ, 合計126,000ドルがキャンパスの芸術を支援することになった。

キャンパスの芸術の「支援会員」であることの意識が学生にもたらした変化は, 提供される基金と同様に重要なものとなった。最初の一年間に芸術センターのコンサートに参加する学生数は, 1879-80年の1学年度の22%から, 1980-81年の42%と2倍

になり, さらにセンターのクラス, ワークショップ, 宿泊研修やインターンシップに参加する学生の数も増加した。つづいての数年間に学生はこれらの支援金の値上を投票で決定してきた。そして現在は, 学部学生も大学院生も年間77ドルを支払っている。1997年の総支援金は, 芸術センターの年間総予算3,279,344ドルの50%に当たる1,560,000ドルとなっている。

教師, 学生, 事務職員などが管理を分担する形式の確立が, キャンパスの芸術を発展させていった。学生は大学評議員会などあらゆる意志決定に参加するようになった。マサチューセッツの評議員である学部学生のStan Rosenbergは, 大学の芸術委員会は「大学の教育に関連する一部として, 芸術に市民が関わっていく技術を学生が発展させていく責任を分担している」とみている(Rosenberg and Lynch 1979)。今日, 大学の芸術委員会は同数の教師, 学生, 職員で構成されている。学生, 教師, 職員の顧問委員会は, 地域社会における職業的, 学術的, 政治的のリーダーから委託されている首脳人友好委員会が行なっているように, 芸術センターに様々なアドバイスを提供している。

一般教育に対する新しいキャンパスモデルのデザイン

マサチューセッツ大学は, 管理運営の徹底的変革を開始している。1997年の間にDavid Scott総長は, 21

世紀におけるリーダーシップに学生が備えることができるように、大学の一般教育を再デザインする数年計画を開始した。わたしたちの大学の新しい教育モデルのデザインを先導し、一般教育作業委員会の座長となるよう依頼されて、わたしはうれしく思い、かつ誇りに感じている。

芸術、人文、科学間の統合、教養と職業教育の垣根の除去は、1862年の創立以来、大学の中心理念となってきた。マサチューセッツ大学は、1862年のモリル運動によって設立された60の土地贈与大学のひとつである。大学における芸術の存在意義は、知識の実用的応用と理論とを融合する教育をそれによって恩恵を受けるすべての人々に提供する、広く変わりつつある公衆に情報を与えるという土地贈与大学の使命に深く根ざしている。

1996年5月、総長室はマサチューセッツ大学アマースト校の1997年から2001年にかけての戦略的行動を出版した。この「学習連合に向けて」という題の出版物は、過去3年間に行なった戦略計画の施行に対する哲学的、財政的枠組みを提供するためのものであった。戦略的行動において、Scott総長は、「教授法、学習、カリキュラム改革」に主要な財政投資することを提案した。わたしたちは、一般教育の作業委員に指名され、関係の問題を研究し、行動計画をたて、提案された企画を試験・評価し、新しい大学モデルの進展を支援することとなった。

作業委員は、1996年の12月に集まった、Scott総長は、教師、学生、職員に討議をすすめるために、いくつかの原則を検討することを提案した。一般教育はつぎの内容をもつべきであるというものである。

- ・学生に知識の統合のセンス、とくに教養的学習を主専攻の職業的、技術的、専門知識に統合させるセンスを提供すること
- ・批判的分析の技術と、科学、芸術、文学、情報テクノロジーにおけるような様々な研究法を身につけていくことを支援すること
- ・芸術、音楽、文学のような分野での美学的感受性を学生に身につけさせること
- ・大学院生に、大学に滞在する数年間に一生の間いくつかの専門的仕事を受け入れることのできる知識、技術、ものの見方を提供すること
- ・知識、技術、および互いに依存性を増している世界において効果的に倫理的に貢献できる精神の習慣、

とくに正規の教室をこえて学びつづけるために必須の想像力、意欲、感覚、精神を、各個人にもたせて卒業させること

一般教育に対する新しいモデルをつくる最初の作業は、効果的变化を生み出すための管理運営組織を決めることであった。複雑な組織を変化させる技術は、よく記述されている(Demski 1993)。同様に、組織に関する文献は、ある組織の「文化」がいかに変革への戦略の成功に影響するかを述べている(Lorsch 1986)。Daniel KatzとRobert L. Kahnは大学の設立に利用できる変化に対する抵抗の源を認識している(Katz and Kahn 1978)。

学術に対する抵抗の源は群衆である。抵抗の多くは報酬構造に深く根ざしているが、他は個々の学問分野(研究と社会貢献)と組織全体の成果(教育と社会奉仕)の間のせめぎあいを伴う。Demskiが指摘するように、「正規でない組織は構成員に強い影響を与え、団体であれば政策的変革にとくに効果的である」。記念碑的といえるような組織変化の問題点とその成果は、リーダーシップとそれぞれの分野がもつ文化的变化の効果的組合せに存在する。これらの変化は、カリキュラムの本質的決定者である教師、教育組織の本質的成果である学生、州が規定した大学の目標を達成するために法律が定める管理職員などの人々の活動や目標の複雑な構造に関わっている。

大学の包括的レビューと一般教育の新しいモデルの創出は、共同作業による。カリキュラム問題における教師の求心力を強めるために、一般教育作業委員の座長は教師評議員規定委員会から作業委員を選出する方法と戦略について合意できる提案を要請し、これを受け取る。作業委員は学生自治会長、大学院生評議員の首席役員を含み、両者は学生のメンバー選出を助ける。学術部長の議会と顧問議会は助言と示唆をあたえる。大学新聞の*The Daily Collegian*と*The Campus Chronicle*は作業委員会が大学の構成員に情報を提供する助けとなる。

Zelda Gamsonとその協力者は、最近、一般教育における組織的变化が進行している単科大学や総合大学の調査所見を公表し、「水先案内を助けるためのいくつかの警告と多くの示唆」について記載している(Gamson 1997)。これらの単科大学や総合大学によって成し遂げられている成功の様々な度合いに関連して、著者らは「一般教育プログラムの改革に成功している単科大学……は問題が起こることを予想し、進

んで妥協しようとし、企画を公開で進めることを奨励し、実行およびプログラムの評価に対して備えている」(Kanter 1997)。著者らは注意深い計画の重要性を以下のように強調している。

一般教育を企画、承認、実行する過程は、象徴的、組織的、個人的意味をもち、学術的部門と講座に必然的に関わってくる。大学の改革へのアプローチは、大学の過去、現在、近未来、および大学の弱点と長所について多くをさらけだし、一般教育はキャンパスの独自性をつくる中心となる。不足と不確かさの時代に、一般教育を改革する過程の最後には、責任を負っている社会に対して行動し、教育に必要とされる変化を起こし、構成員のニーズに合わせた改革をするキャンパスの地力が現われる。

一般教育タスクフォースからの報告

1997年5月2日にまとめられた大学教育の目標、成果、本質に関する合意事項の記述

一般教育の主たる到達目標は生涯学習の基盤を獲得することである。この到達目標が意味する成果は何か? いかに学ぶかを学んだといえる人物を特徴づけるものは何か?

彼らは、具体的に必要となる場合のいかなる分野の学習にも対応できる十分な知識の幅をもった人物である。

彼らは、つぎのような広汎な学習の仕方を身につけている。

- ・読むこと、書くこと、聴くこと、話すこと、討論すること
- ・ひとりで自習できること
- ・他者と共同で学習できること
- ・具体的知識を吸収し、理解することで学習できること
- ・自分自身の発想で仕事をするにより学習できること
- ・自分自身を反映させ、自分自身の考えや学習の過程を吟味することにより学習できること
- ・他の人々や他の文化の視点に入って学習できること
- ・世界や地域社会の奉仕活動に参加することによって学習できること
- ・様々な専攻と学習形態の間の関係を探求することにより学習すること

より学習すること

彼らは、つぎのような広汎な考える方法を身につけている。

- ・歴史的調査
- ・科学的、定量的調査
- ・人間的、解釈的、想像的調査
- ・審美的調査、とくに芸術を歓迎し、これに参加すること
- ・倫理的、価値に基づく調査

これらの能力のみでは不十分である。これを用いる決定は個々にまかされているからである。それにもかかわらず、生涯学習のためにこれらの能力を用いる知恵と欲求をもつことが、マサチューセッツ大学卒業生の理想像である。

マサチューセッツ農科大学が1867年に学生に開かれたとき、主たる目的は農業経営者の訓練であったが、その時代の複雑な知識を歓迎できる人間、自分の生活だけのためではなく、社会全体のためによるこんで活動できるリーダー養成としての市民教育も目的とした。カリキュラムは現場での3時間の労働と人文および社会科学のクラスを含んでいた。

わたしたちが21世紀に備える計画をたてているうちに、教師は、一般教育と職業教育が別のものでなく、互いに補い合うものであることを信ずるようになった。一方、社会は特別な仕事を施行できる人物を求め、とくに多くのことを適切にすることを学べる人物を必要としている。仕事場において、および仕事場をはなれた生活において、もっとも生産的で満足のいく人物は、新しい発想を吸収でき、普遍化して感じることができ、意見を情熱と正確さと丁寧さをもって表現できる人物である。したがって、一般教育は、多くの学問分野の理解を促進し、自分自身とは似ていない人々について学ぶことを含み、巧みにコミュニケーションの技術を駆使できるように導くものである。

実際の印象は別にしても、一般教育は生涯学ぶことを愛する人物を育てる手段として必須のものである。何年もの間、学生は一般的でない発想を試す必要性を表現してきたし、首尾一貫した人生哲学を探し求めてきた。一般教育プログラムは英知の探求を励ますようにデザインされている。

結語

マサチューセッツ大学アマーフト校が芸術をもつ

具体的意義は、芸術が大部分の学生の学術生活の一部をなすことにある。芸術は、学生たちが21世紀に地球上に生きることを学ぶ一般教育の中の重要な科目である。芸術は、また、市民に対する文化の中心としての大学の役割における活動要素でもある。

1997年の7月に、マサチューセッツ大学を訪問中の北海道大学の丹保憲仁総長に会うことができたことはこの上ない喜びであった。彼は、Scott 総長と一般教育作業委員のメンバーに対してつぎのように語った。

一般教育におけるつぎのテーマは、自然と人間性との共生です。地球環境時代に対する教育は、専攻をこえたものでなければならず、これは一般教育という一般的な学習から開始しなければなりません。高等教育の講座化であった百年の後に、わたしたちは単なる改善でなく、革命を求めているのです。

マサチューセッツ大学アマースト校はまさにこの革命に全力をあげて参加している。

わたしたちは、丹保総長の教育的視点に感銘をうけ、また、北海道大学の高等教育機能開発総合センター高等教育開発研究部によって実施された「高等教育に関する国際ワークショップ」に対する援助に感銘した。わたくしたちは、実行委員長の阿部和厚教授を称賛する。阿部教授は、内容を予測して見事に企画し、学会を優雅に取り仕切り、すべての観点から完璧に運営した。また、実行委員会と顧問のメンバー、学会の全過程を援助し、わたしたちの参加に喜びをあたえてくれた素晴らしい学生たちに謝意を表す。

わたくしは、土曜の「市民に対する文化の中心である大学」というセッションで、講演を傾聴し、質問をしてくれた美しい都市、札幌の多くの市民に感謝する。また、日本と米国の主要研究大学における芸術の意義について、芸術における仲間である原田康夫広島大学長と討論できたことは、わたくしの大きな喜びであった。わたくしたちすべてに、この国際ワークショップに参加の機会を与えてくれたあなたがたに感謝する。あなたがたの姉妹校であるマサチューセッツ大学アマースト校で、わたしたちは、北海道大学における仲間とともに、さらなる冒険に立ち向かいたい。

参考文献

- Albright, Madeleine K. (1997), "Albright's words: Global task for U. S." *The Boston Globe*, 9 June 1997
- Brubacher, John S. & Rudy, Willis (1968), "Higher Education in Transition: A History of American Colleges and Universities, 1636-1968." New York: Harper & Row, Publishers
- Demski, Stephen (1993), "Resistance to Change: Why Your TQM Efforts May Fail." Presented at the February, 1993, ASCE Engineering Management Division Conference at Denver, Colorado
- Gamson, Zelda F. (1997), Personal note to the author, February 1997
- Kanter, Sandra L., Gamson, Zelda F. and London, Howard B. *et al.* (1997), "Revitalizing General Education in a Time of Scarcity: A Navigational Chart for Administrators and Faculty." Allyn and Bacon
- Katz, Daniel and Kahn, Robert L. (1978), "The Social Psychology of Organizations." 2d ed. New York: John Wiley & Sons
- Jefferson, Thomas (1800), Letter to Joseph Priestly. published in Hofstadter, Richard and Smith, Wilson, eds. (1969), "American Higher Education: A Documentary History." vol. 1. Chicago: The University of Chicago Press
- Lorsch, Jay W. (1986), "Managing Culture: The Invisible Barrier to Strategic Change," *California Management Review* 23(2), (Winter 1986): 95-109
- Office of Academic Planning and Assessment (1997), "General Education at UMass Amherst: Undergraduate Students' Attitudes." Presented to the University Task Force on General Education, 7 February 1997
- Office of Academic Planning and Assessment (1997), Unpublished enrollment data compiled as of February 1997 by Stassen, Martha L. A. University of Massachusetts Amherst
- Office of Institutional Research (1996), "Factbook 1994-1996." University of Massachusetts Amherst
- Office of Institutional Research (1997), "Admissions and Enrollment Report Spring 1997." University of Massachusetts Amherst
- Office of the Provost (1995), "General Education Requirements." University of Massachusetts Amherst
- Rosenberg, Stan and Lynch, Robert (1977), "University and College Arts Councils: Some Alternatives." Associated Councils on the Arts (Fall 1977)
- Scott, David K. (1995), Letter to the campus, University of Massachusetts Amherst, in Stifler, John R. (1995). *The Fine Arts Center, University of Massachusetts Amherst, 1975-1995*, University of Massachusetts Amherst
- Scott, David K. (1996), "Strategic Action at the Univer-

- sity of Massachusetts Amherst, FY 1997-2001: Towards a Commonwealth of Learning.” Office of the Chancellor, University of Massachusetts Amherst (May 1996)
- Scott, David K. (1997), General Education Review. Memorandum to the author, 27 January
- Smith, Roger B. “Business and the Liberal Arts,” *Michigan Today* (December 1985), 4
- Sutton, Preston M. (1884), A State Senator Argues for a Liberal Curriculum at Iowa State Agricultural College, published in Hofstadter, Richard and Smith, Wilson, eds. (1961). “American Higher Education: A Documentary History,” vol. 2. Chicago: The University of Chicago Press
- Stiffler, John R. (1995), *The Fine Arts Center, University of Massachusetts Amherst, 1975-1995*. University of Massachusetts Amherst. The author gratefully acknowledges substantial reference to this publication, with permission, as the basis for the description of the Fine Arts Center
- Tambo, Norihito, President, Hokkaido University, Remarks to Chancellor David K. Scott, University of Massachusetts Amherst and members of the University Task Force on General Education, July 29th, 1997
- Wayland, Francis (1850), Report to the Brown Corporation, published in Hofstadter, Richard and Smith, Wilson, eds. (1961). “American Higher Education: A Documentary History,” vol. 2. Chicago: The University of Chicago Press
- Wright, Patricia (1996), “Making It New.” *UMASS: The Magazine for Alumni and Friends of the Amherst Campus* (Fall 1996), 34-35

（ 翻 訳 ： 阿 部 和 厚 ）